



# 長生村人口ビジョン



平成28年3月  
千葉県長生村



## はじめに

我が国の人口は、2008年をピークに減少局面に入っており、これに時を同じくして、本村の人口も減少に転じています。こうした中、急速に進む少子高齢化と人口減少に歯止めをかけ、地域の活力を取り戻す「地方創生」を実現するには、長生村の「強み」を生かし、住民、企業及び各種団体が一丸となって取組みを進める必要があります。



長生村は、太平洋の黒潮による影響を受けて、年間を通して温暖な気候に恵まれています。また、村内南側を太平洋に注ぐ一宮川によって形成された沖積平野に位置することから、山や丘陵はなく平坦な地形となっています。こうした気候条件と地形を生かし、稲作・野菜栽培・酪農といった農業、地引網等による沿岸漁業及び白砂青松の一松海岸一帯に海水浴場等の観光業が発展してきました。一方、商工業としては天然ガス等の鉱物資源を活用した鉱業開発、造成した西部工業団地における企業立地及び国道128号沿いに商業施設の立地が進み、村内の生産販売額も伸び、地域雇用の確保につながっています。これらを最大限に活用し、長生村の「強み」に変えることで、「地方創生」の実現が可能であると考えます。

このたび、本村では、まち・ひと・しごと創生法（平成26年11月28日法律第136号）に基づき、本村人口の現状と将来展望を示す「長生村人口ビジョン」と、今後5年間の目標や施策の方針をまとめた「長生村総合戦略」を策定いたしました。

今後は、この人口ビジョン及び総合戦略に基づき、本村の「強み」を生かして、若い世代の希望がかなえられる輝かしい将来に向け、「夢がある、生きがいを感じる、住んで良かった長生村」と思える村づくりを住民の皆様とともに推進してまいりますので、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本計画の策定にあたり貴重なご意見ご提言等をいただきました住民の皆様をはじめ、村議会、村まちづくり推進委員会の皆様に対し、心から感謝申し上げます。

平成28年3月

長生村長 小高陽一

# 目次

1. 長生村の人口に関する基礎分析	1
第1節 人口構造・人口動向等の分析	1
(1) 人口及び世帯数の推移	1
(2) 年齢3区分別人口の推移	2
(3) 出生・死亡の推移	4
(4) 転入・転出数の推移	6
第2節 経済分析	9
(1) 事業所	9
(2) 産業別就業人口の推移	9
(3) 産業別動向	11
(4) 村の財政	14
2. 長生村の将来人口の推計	15
第1節 将来人口の推計方法について	15
第2節 独自推計について	15
第3節 推計結果	18
(1) 村内総人口	18
(2) 村内男女別人口	19
3. 人口変化が地域の将来に与える影響の分析・考察	21
第1節 分析する推計人口の設定	21
第2節 人口分析等の結果のまとめ	23
4. 具体的施策を実施した場合の推計シミュレーション	25
第1節 3種のシミュレーションの結果	26
(1) シミュレーションの結果	26
(2) シミュレーションの結果における人口構成バランス	27
5. 目指すべき将来の方向	28
第1節 目指すべき将来の方向と姿について	28
第2節 将来目標人口の設定	29

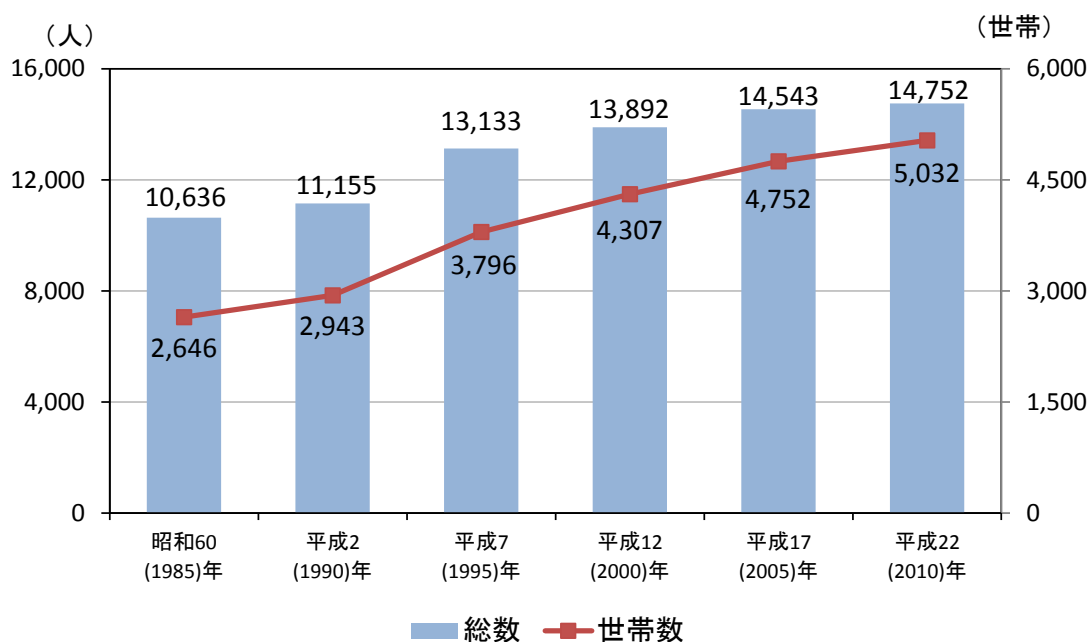
# 1. 長生村の人口に関する基礎分析

## 第1節 人口構造・人口動向等の分析

### (1) 人口及び世帯数の推移

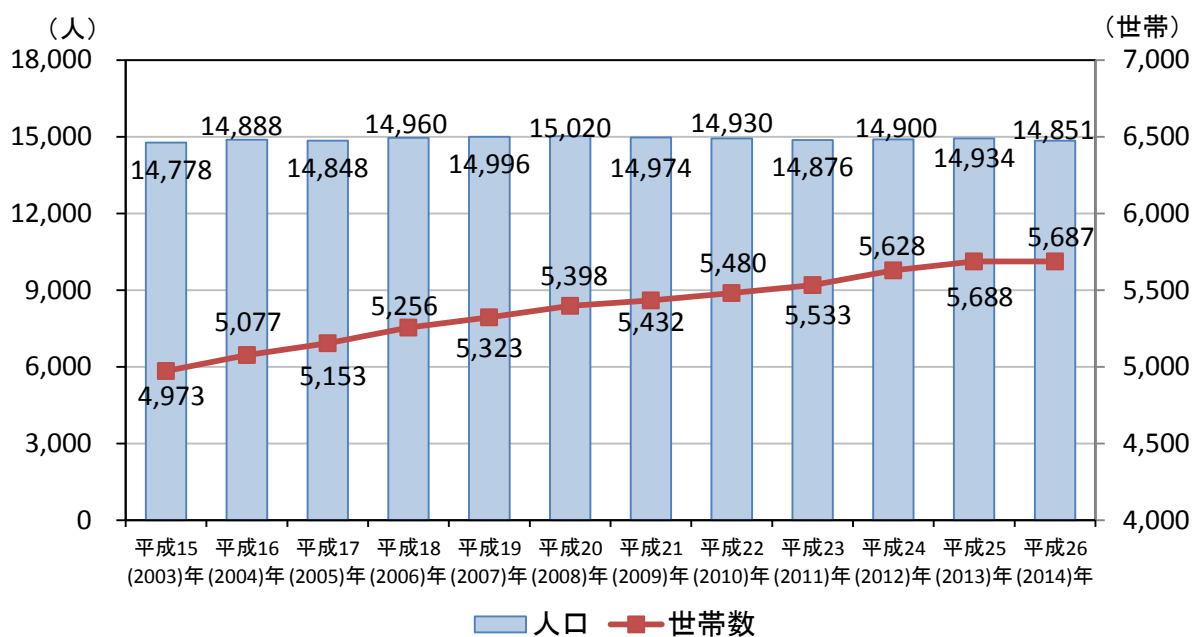
- ・長生村の人口及び世帯数は、直近20年を通じて増加傾向が続いている。
- ・近年では人口は、概ね横ばいにて推移し、世帯数は微増傾向が見られる。

#### ■ 人口・世帯数の推移



出典：国勢調査（各年10月1日時点）より

#### ■ 人口・世帯数の推移



出典：住民基本台帳（各年4月1日時点）より

## (2) 年齢3区分別人口の推移

- ・「年少人口」は、ほぼ横ばいに推移しているが、近年は減少傾向が見られる。
- ・「生産年齢人口」及び「老年人口」は継続的に増加傾向が現れている。特に「老年人口」では、平成22(2010)年時点の人口は昭和55(1980)年比の約2.6倍に増加している。

### ■ 年齢3区分別人口の推移

年次	総数		年少人口		生産年齢人口		老年人口		不詳	
	実数	構成比(%)	実数	構成比(%)	実数	構成比(%)	実数	構成比(%)	実数	構成比(%)
昭和55(1980)年	10,132	100.0	2,044	20.2	6,728	66.4	1,360	13.4	0	0.0
昭和60(1985)年	10,636	100.0	2,131	20.0	6,952	65.4	1,553	14.6	0	0.0
平成2(1990)年	11,155	100.0	1,912	17.1	7,390	66.2	1,853	16.6	0	0.0
平成7(1995)年	13,133	100.0	2,125	16.2	8,683	66.1	2,325	17.7	0	0.0
平成12(2000)年	13,892	100.0	2,070	14.9	9,092	65.4	2,729	19.6	1	0.0
平成17(2005)年	14,543	100.0	2,004	13.8	9,224	63.4	3,249	22.3	66	0.5
平成22(2010)年	14,752	100.0	1,873	12.7	9,025	61.2	3,854	26.1	0	0.0

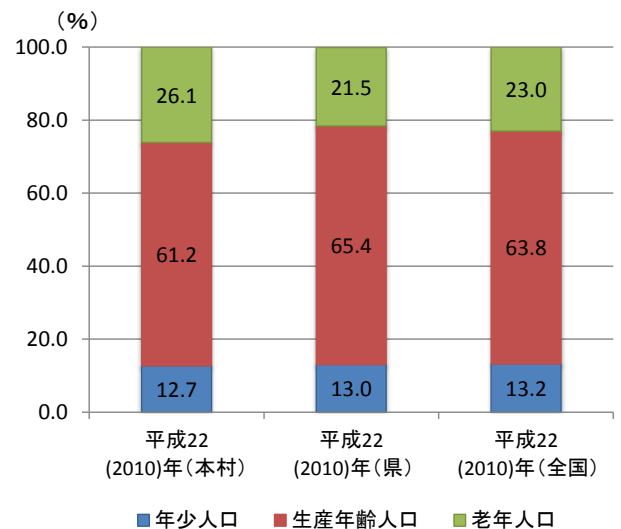
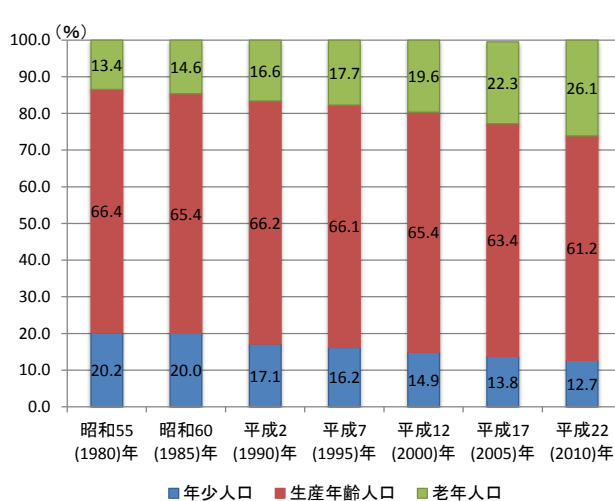
注：年少人口・・・1から14歳 生産年齢人口・・・15～64歳 老年人口・・・65歳以上

資料 総務省統計局「国勢調査」

出典：国勢調査（各年10月1日時点）より

- ・長生村の各年齢人口の構成比によると、「年少人口」は継続的に減少する一方で「老年人口」は増加傾向が見られ、少子高齢化が進行していることが伺える。
- ・長生村の各年齢人口の構成比を県や国の構成比と比較すると、「生産年齢人口」の構成比は県・国よりも低く、「老年人口」の構成比は県・国よりも高い値を示しており、長生村の高齢化率の高さが伺え、少子高齢化が進んでいることが分かる。

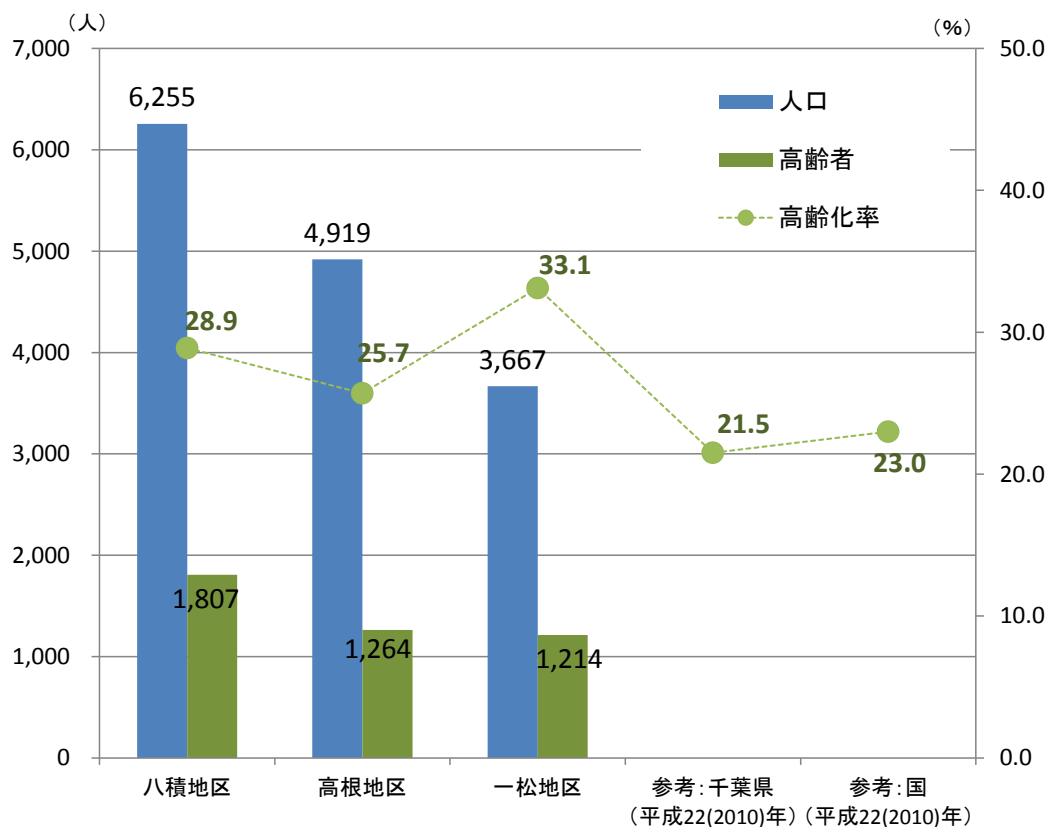
### ■ 年齢3区分別人口の推移、及び平成22年における県・国との比較



出典：国勢調査（各年10月1日時点）より

- ・町丁目ごとの人口は、本郷のように2,500人を超す人口を有する町丁目がある一方、100人に満たない町丁目もあることから、村を3つに分けた地区ごとの人口を表示する。
- ・いずれの地区も高齢化率が概ね3割前後となっている。

### ■ 地区ごとの人口と高齢化率



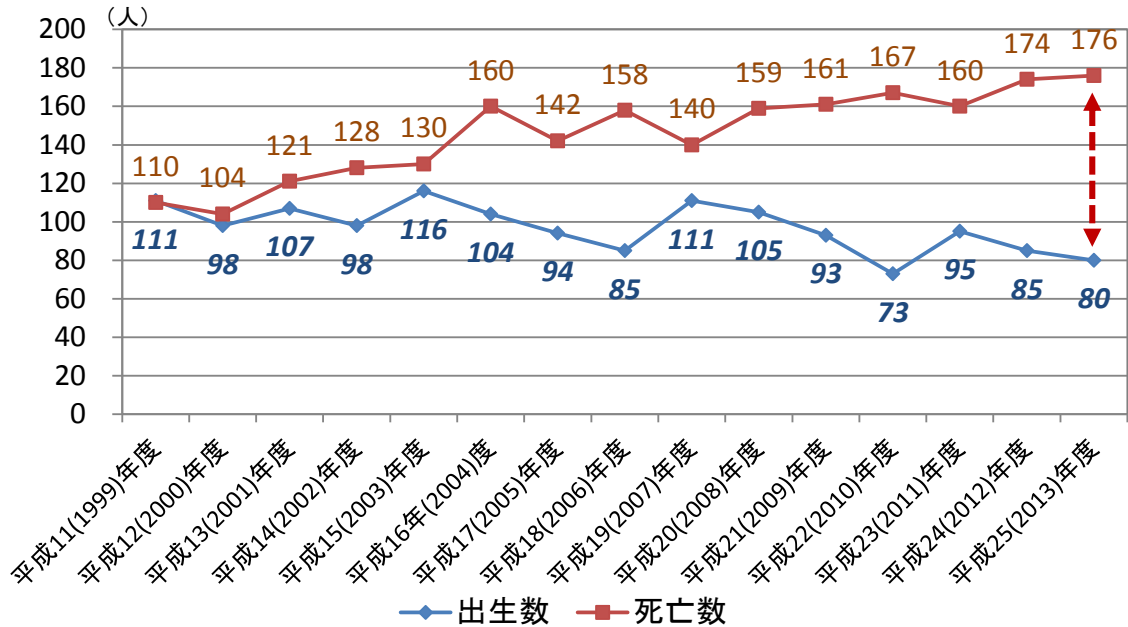
地区名		人口(人)	高齢者(人)	高齢化率(%)
長生村	八積地区	6,255	1,807	28.9
	高根地区	4,919	1,264	25.7
	一松地区	3,667	1,214	33.1
参考:千葉県(平成22(2010)年)		6,216,289	1,320,120	21.5
参考:国(平成22(2010)年)		128,057,352	29,245,685	23.0

出典：長生村データは住民基本台帳（平成26(2014)年10月1日時点）より  
 ：千葉県及び国データは国勢調査（平成22(2010)年10月1日時点）より

### (3) 出生・死亡の推移

- ・出生数は、数年おきに増減を繰り返しながらも緩やかに減少している。
- ・死亡数は、年々緩やかに増加しており、死亡数が出生数を上回る「自然減」が続いている。

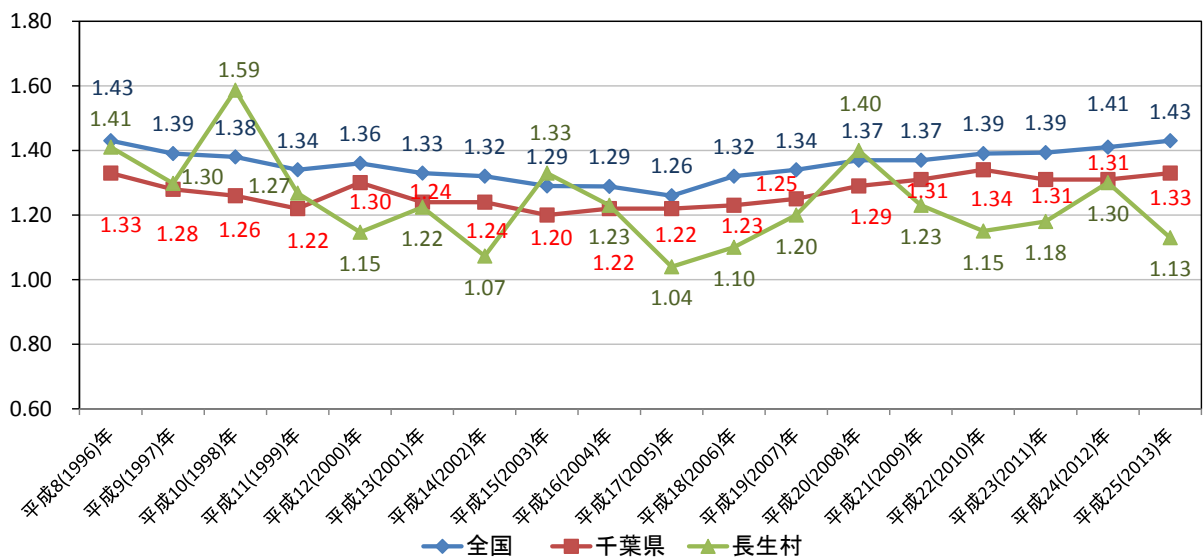
#### ■ 出生・死亡数の推移



出典：住民基本台帳より

- ・出生率（合計特殊出生率）をみると、平成25(2013)年度は長生村が1.13、千葉県が1.33、全国が1.43となっており、長生村は低い水準にある。平成17(2005)年度以降、国や千葉県が回復傾向で推移しているが、長生村では増減を繰り返す傾向で推移している。

#### ■ 合計特殊出生率の推移

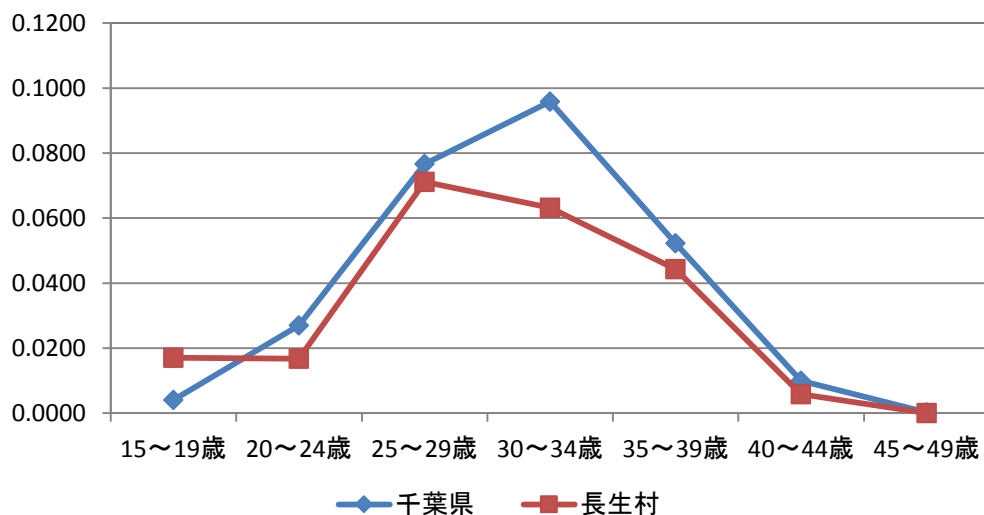


出典：人口動態統計より



- ・母の年齢別の出生率（合計特殊出生率）を千葉県と比較すると、「15～19歳」以外の各年代において千葉県の出生率より低く、特に「30～34歳」における出生率が大きく下回っている。

■ 母の年齢5歳別出生数、出生率



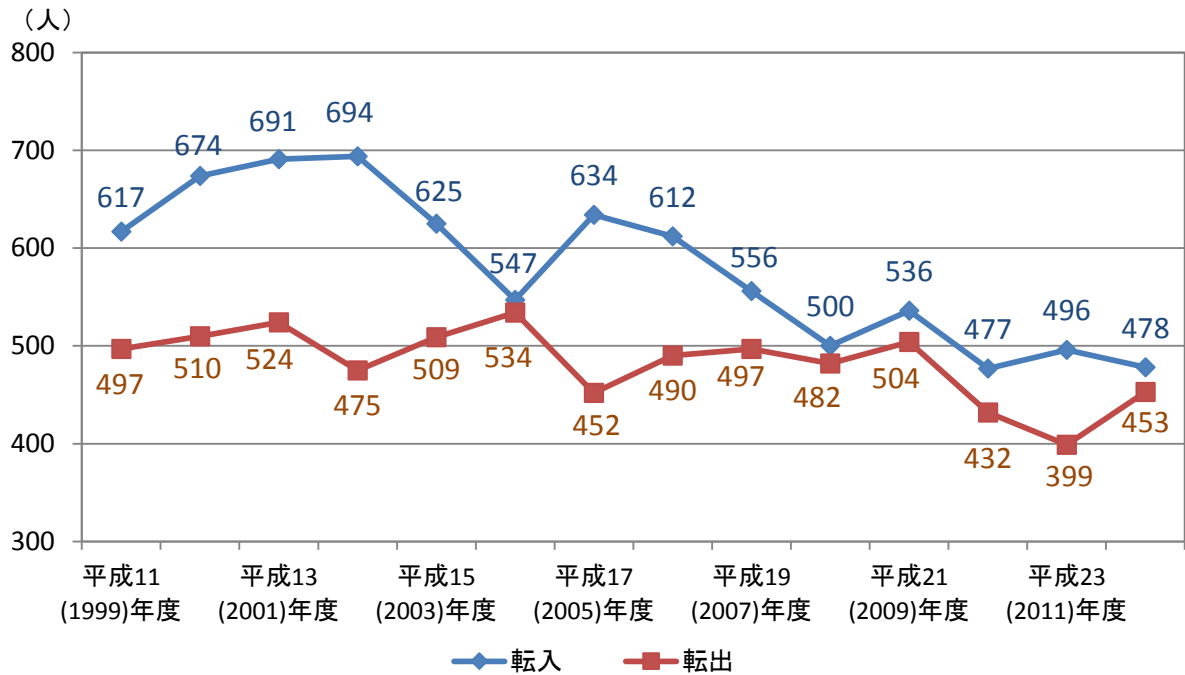
母の年齢	人口(平成25(2013)年)		出生数(平成25(2013)年)		出生率(%)		
	千葉県	長生村	千葉県	長生村	千葉県	長生村	千葉県－長生村
15～19歳	139,588	353	561	6	0.0040	0.0170	0.0130
20～24歳	142,748	298	3,852	5	0.0270	0.0168	-0.0102
25～29歳	164,054	295	12,571	21	0.0766	0.0712	-0.0054
30～34歳	182,217	380	17,467	24	0.0959	0.0632	-0.0327
35～39歳	218,205	474	11,407	21	0.0523	0.0443	-0.0080
40～44歳	243,374	515	2,430	3	0.0100	0.0058	-0.0042
45～49歳	202,598	484	52	0	0.0003	0.0000	-0.0003

出典：人口は住民基本台帳より  
 出生数は人口動態統計より

#### (4) 転入・転出数の推移

- ・転入は、平成14年をピークに減少傾向が続いている。
- ・転出は、若干減少傾向が見られるもののほぼ横ばいにて推移している。転入は、平成14(2002)年の694人が平成24(2012)年には478人に減少している。継続的にほぼ転入数が転出数を上回る「社会増」であるものの、近年はその差は狭まっている。

#### ■ 転入・転出数の推移



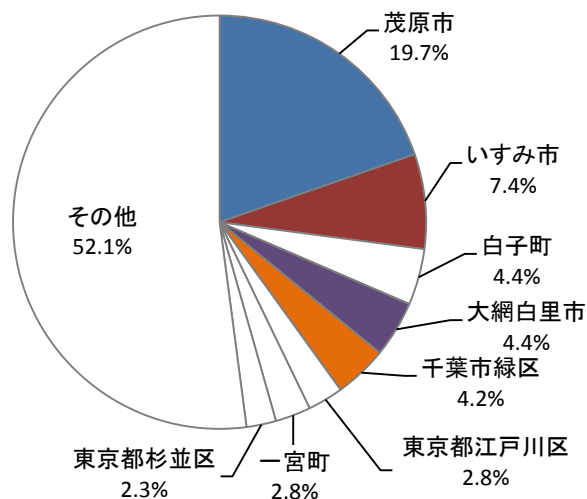
出典：住民基本台帳より

<参考>近郊都市との転入状況

・転入・転出いずれにおいても「茂原市」や「千葉市」からの転入・転出が多い。

■ 転入数内訳（平成26(2014)年）

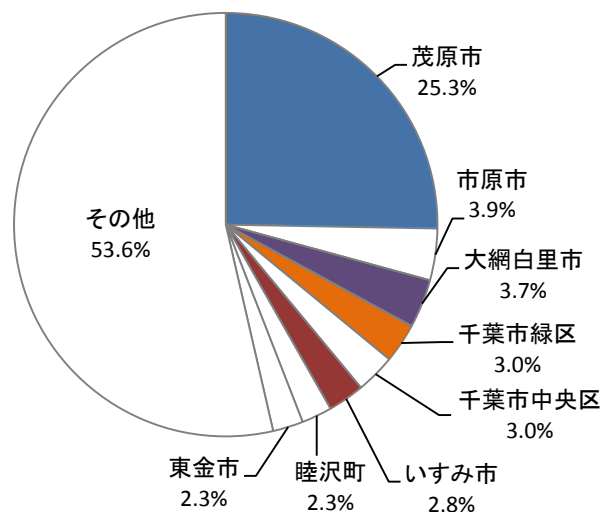
<b>転入合計</b>	<b>432</b>
茂原市	85
いすみ市	32
白子町	19
大網白里市	19
千葉市緑区	18
東京都江戸川区	12
一宮町	12
東京都杉並区	10
その他	225



<参考>近郊都市との転出状況

■ 転出数内訳（平成26(2014)年）

<b>転出合計</b>	<b>431</b>
茂原市	109
市原市	17
大網白里市	16
千葉市緑区	13
千葉市中央区	13
いすみ市	12
睦沢町	10
東金市	10
その他	231



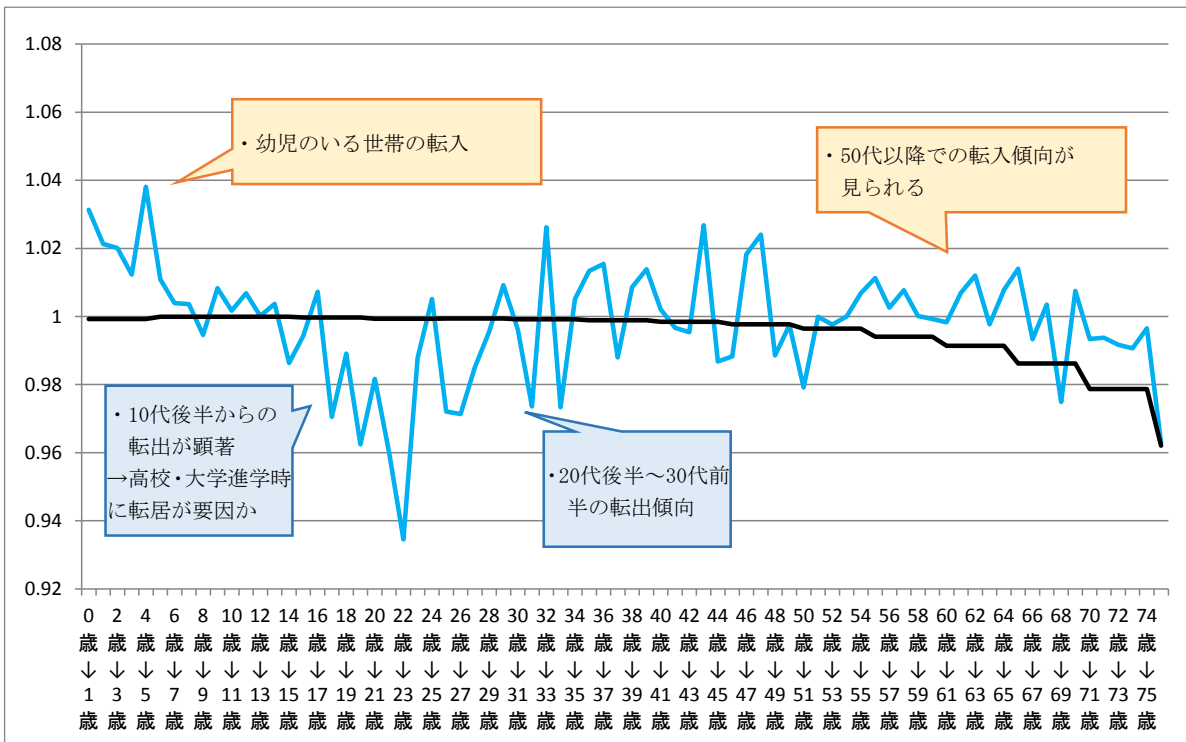
出典：住民基本台帳人口移動報告年報（平成26(2014)年）より

なお、色付きは転入・転出ともに上位8団体以内に入っている団体を表している。

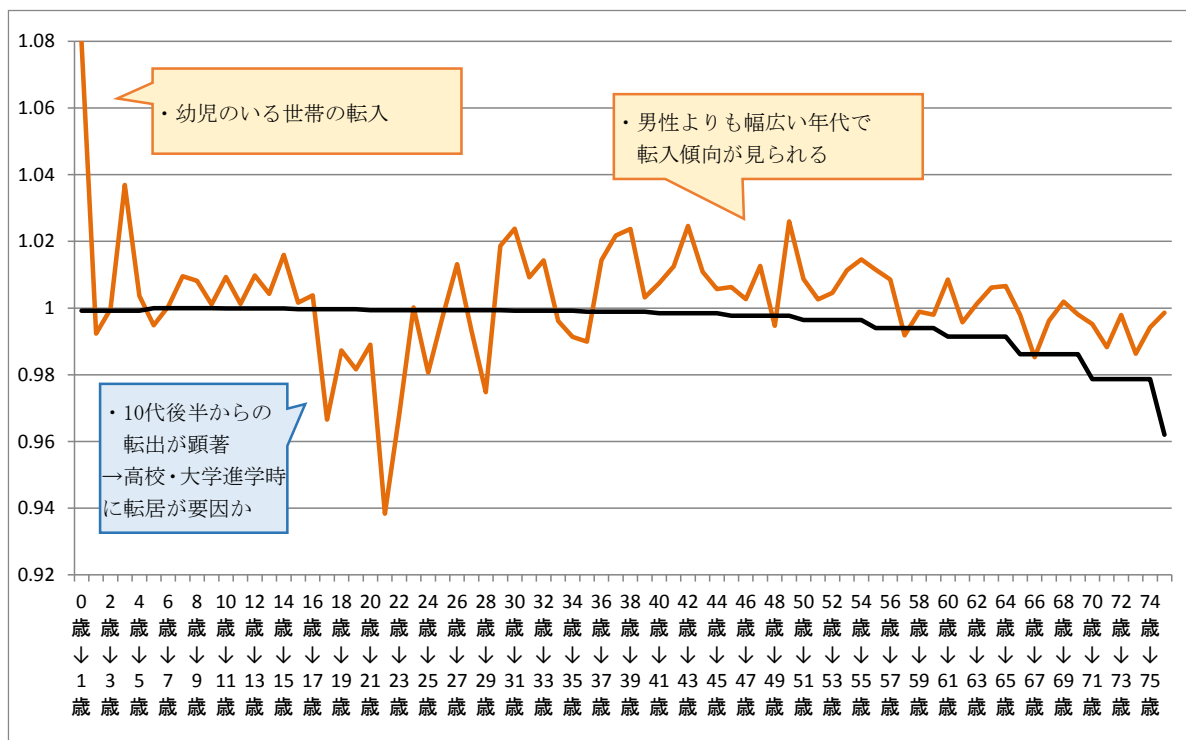
## <参考>長生村の人口変化率の推移

### ■ 年齢別・性別人口の変化率の推移

#### 1) 男性



#### 2) 女性



※住民基本台帳をもとに1歳階級ごとに平成23(2011)年から平成27(2015)年までの各年の人口変化率の平均を算出。

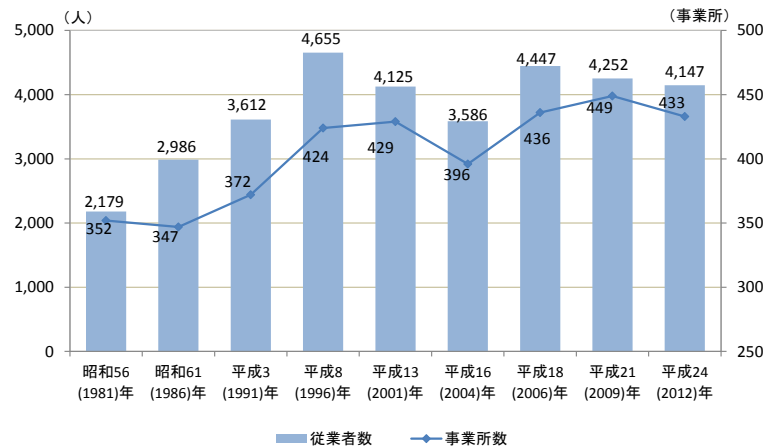
※黒線は生残率であり、平成22年厚生労働省人口動態調査より算出。

## 第2節 経済分析

### (1) 事業所

- ・長生村の事業所数は増減を繰り返しつつも継続的に増加傾向が見られ、従業者数も増加している。

#### ■ 事業所数・従業者数の推移

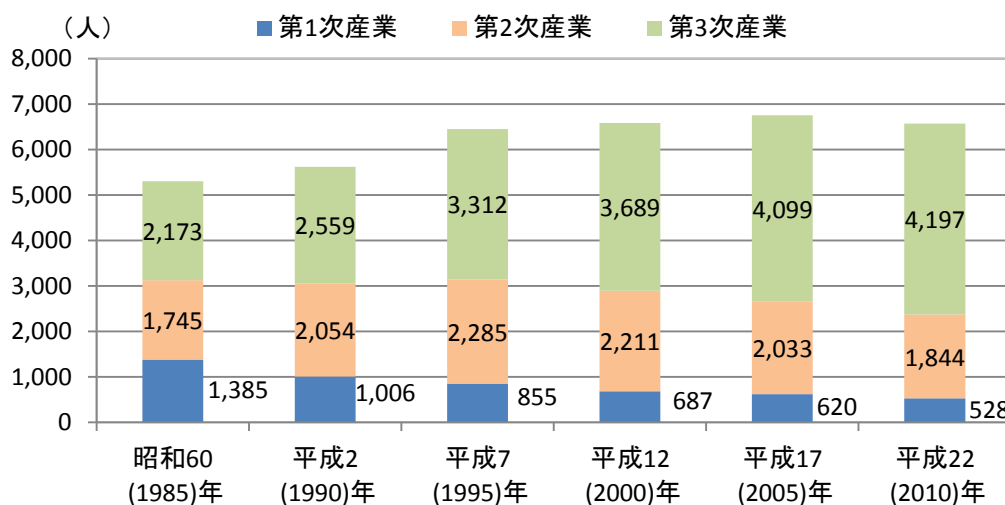


出典：平成18(2006)年以前は「事業所・企業統計調査」(各年10月1日時点)  
 :平成16(2004)年は「簡易調査」(平成16(2004)年6月1日時点)  
 :平成21(2009)年は「経済センサス基礎調査」(平成21(2009)年7月1日時点)  
 :平成24(2012)年は「経済センサス活動調査」(平成24(2012)年2月1日時点)

### (2) 産業別就業人口の推移

- ・長生村では第3次産業の就業者数が多く、年々増加傾向が見られる。
- ・平成22(2010)年時点では第3次産業が4,197人(昭和60年の就業者数(2,173人)の約1.9倍)、第2次産業が1,844人、第1次産業が528人(昭和60年の就業者数(1,385人)の約4割に減)となっている。

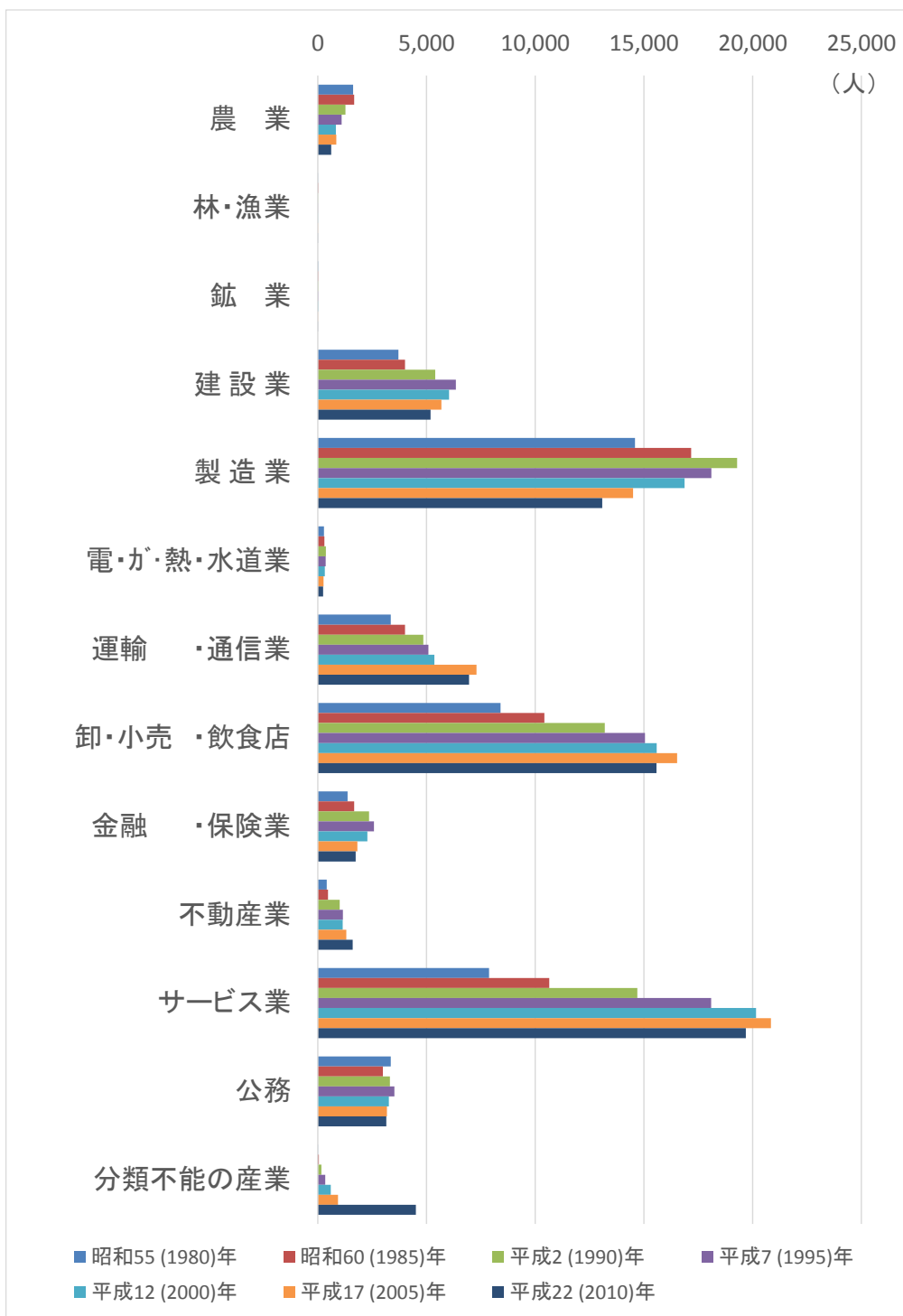
#### ■ 産業別就業人口の推移



出典：国勢調査(平成22(2010)年10月1日時点)より

- ・長生村では製造業の他、第3次産業の就業者数が多い。特に、卸・小売・飲食店やサービス業の就業者数が多い。

■ 産業大分類別就業者人口の推移



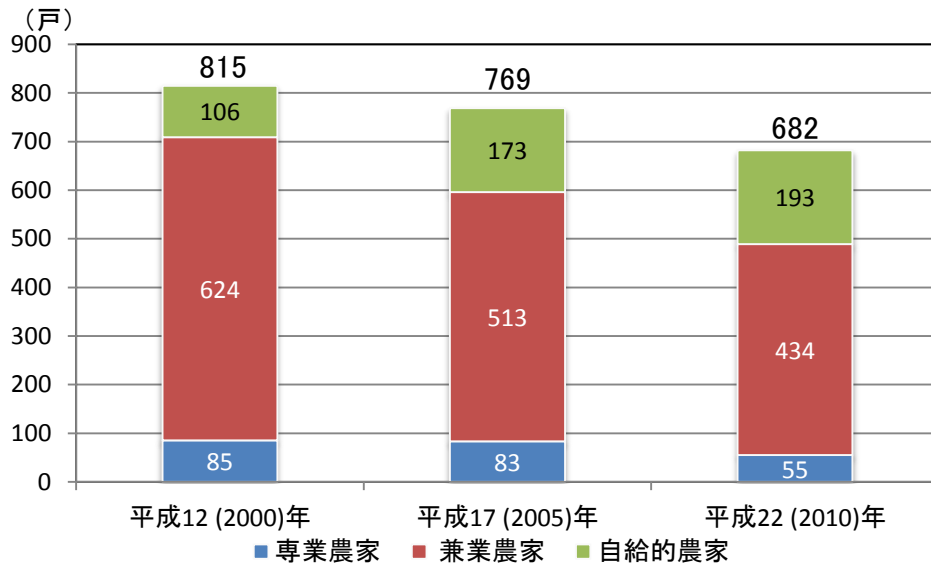
出典：国勢調査（平成22(2010)年10月1日時点）より

### (3) 産業別動向

#### ① 農業

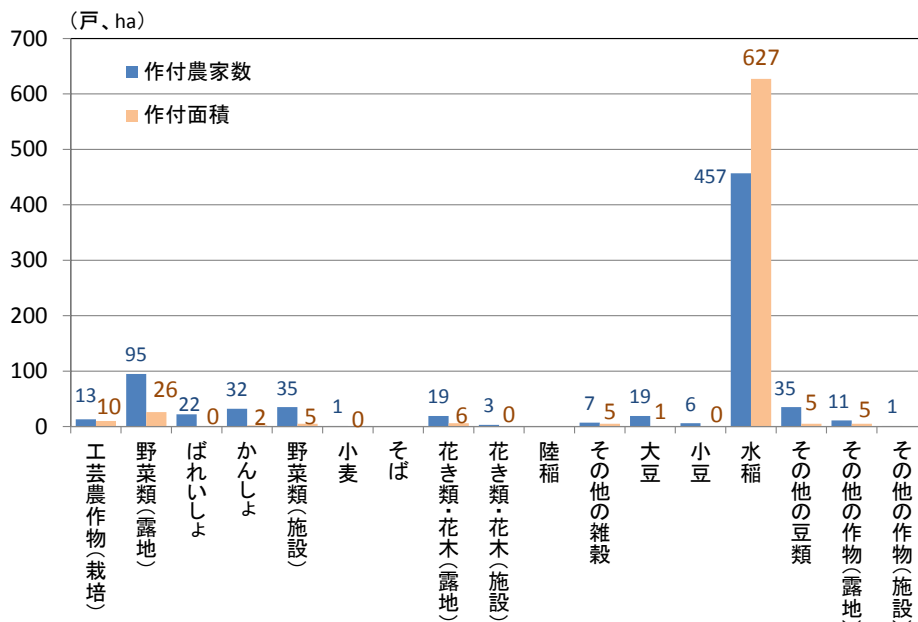
- ・農家数は、減少傾向にあり、特に兼業農家の減少が目立つ。
- ・作物別作付農家数・面積共に、稲作中心である。

#### ■ 農家数の推移



出典：農林業センサス（各年2月1日時点）より

#### ■ 作物別作付農家数・面積（平成22(2010)年）



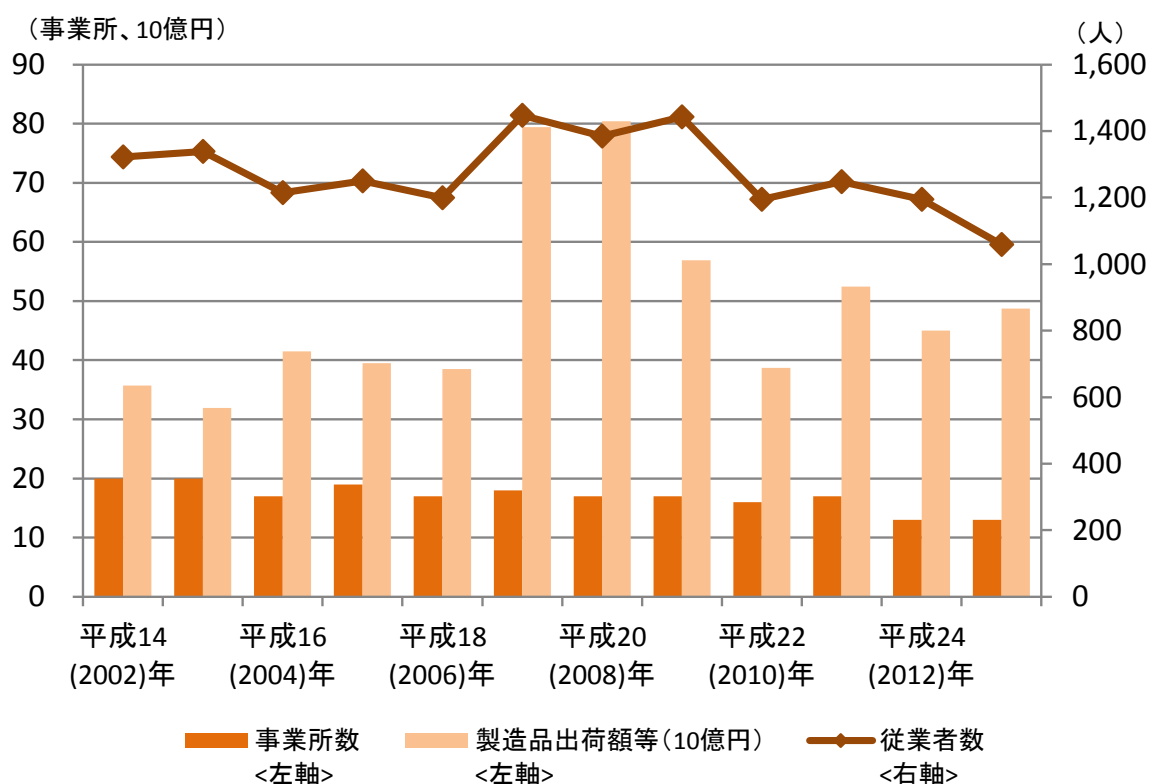
出典：農林業センサス（平成22(2010)年2月1日時点）より

## ② 工業

- ・ 製造品出荷額等は、平成19(2007)年から平成20(2008)年頃にかけて急増したが、全体的に緩やかに増加傾向が見られる。
- ・ 事業所数及び従業者数は、ほぼ横ばいに推移しているが、やや減少傾向が見られる。

### ■ 事業所数、従業者数、製造品出荷額の推移

	事業所数	従業者数	製造品出荷額等 (10億円)
平成14(2002)年	20	1,322	35.7
平成15(2003)年	20	1,339	32.0
平成16(2004)年	17	1,215	41.5
平成17(2005)年	19	1,250	39.5
平成18(2006)年	17	1,199	38.5
平成19(2007)年	18	1,447	79.4
平成20(2008)年	17	1,385	80.4
平成21(2009)年	17	1,443	56.9
平成22(2010)年	16	1,195	38.7
平成23(2011)年	17	1,248	52.5
平成24(2012)年	13	1,195	45.0
平成25(2013)年	13	1,059	48.7



出典：工業統計調査（各年12月31日時点）より

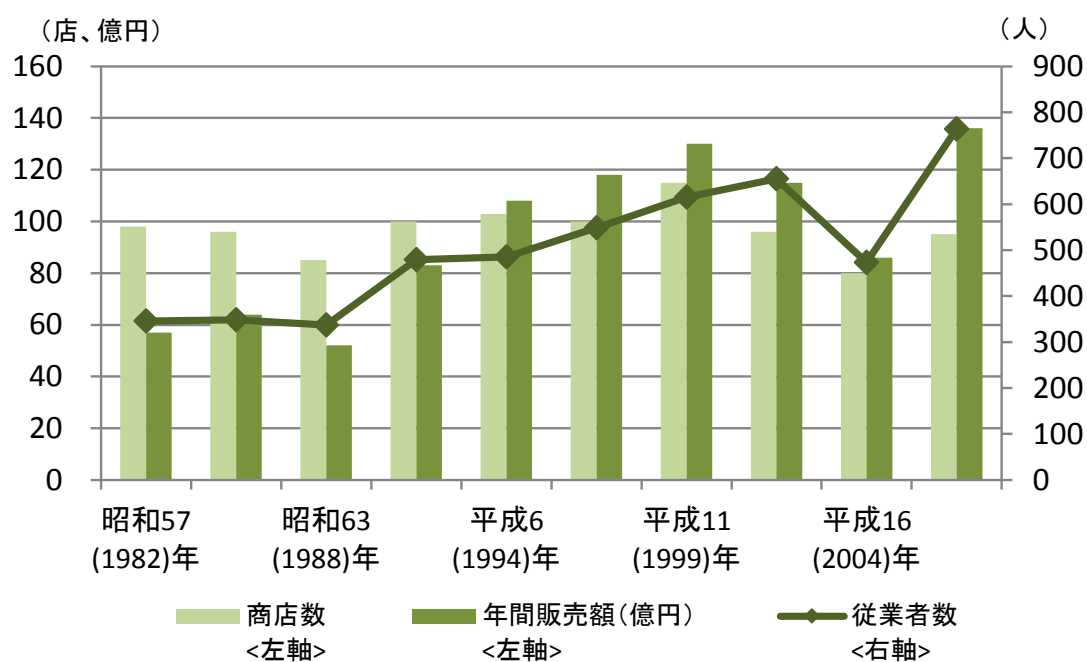


### ③ 商業

- ・ 商店数は、ほぼ横ばいに推移している。
- ・ 年間販売額（及び従業者数）は、増減があるものの全体的に増加傾向が続いている。

#### ■ 商店数、従業者数、年間販売額の推移

	商店数	従業者数	年間販売額 (億円)
昭和57(1982)年	98	346	57
昭和60(1985)年	96	348	64
昭和63(1988)年	85	337	52
平成3(1991)年	100	479	83
平成6(1994)年	103	485	108
平成9(1997)年	100	549	118
平成11(1999)年	115	615	130
平成14(2002)年	96	655	115
平成16(2004)年	80	473	86
平成19(2007)年	95	764	136

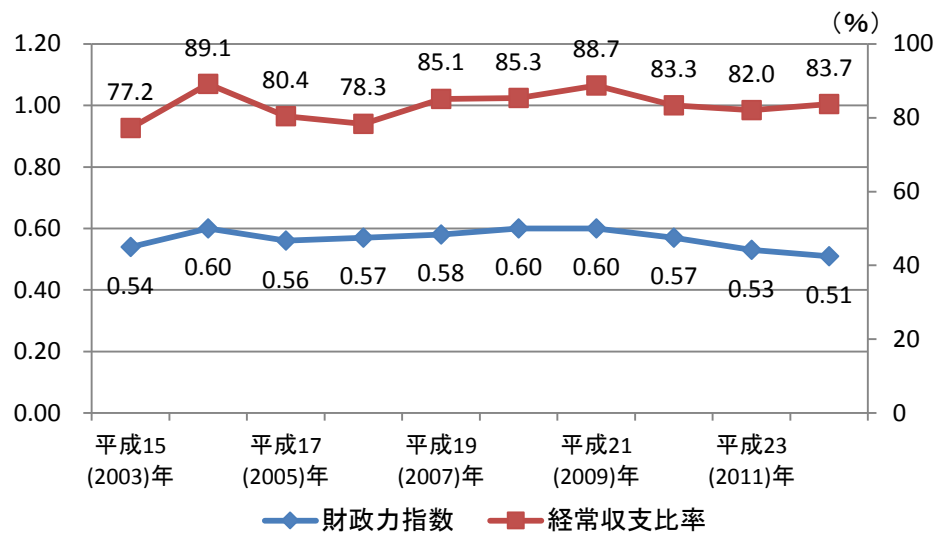


出典：商業統計調査（各年6月1日時点）より

#### (4) 村の財政

・長生村の経常収支比率は、年度によって増減はあるものの概ね80%を推移している。

##### ■ 財政指標の推移



出典：市町村決算カードより

## 2. 長生村の将来人口の推計

### 第1節 将来人口の推計方法について

国勢調査の人口に基づき次の①、②の2つのパターンの推計を行い、さらに住民基本台帳の人口に基づき③のパターンの推計（独自推計）を行う。

- ①国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠した推計
- ②日本創生会議の推計に準拠した推計
- ③住民基本台帳上の人口に基づく1年ごとの人口推計

推計及び分析に際しては、『「地方人口ビジョン」及び「地方版総合戦略」の策定に向けた人口動向分析・将来推計について』（内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局、平成26年10月20日）に準拠する。

本計画では、とくに③について、具体的施策を実施した場合の総人口、性別、年齢別の人口比較を行う。

### 第2節 独自推計について

③の独自推計においては、コーホート変化率法を用いている。以下の方針を設定し、手順に基づいて推計した。

#### ■ コーホート変化率法とは

人口推計の方法には「コーホート変化率法」や「コーホート要因法」などがある。

「コーホート」とは、同じ年（又は同じ期間）に生まれた人々の集団のことを指す。例えば、平成24年4月2日～平成25年4月1日生まれのコーホートは、平成27年4月1日時点で満2歳、平成31年4月1日時点で満6歳となり、平成31年度の小学1年生となる人々の集団である。

「コーホート変化率法」とは、各コーホートについて、過去における人口の変化から「変化率」を求め、それに基づき将来人口を推計する方法である。本計画の独自推計においては、平成23（2011）年～平成27（2015）年の住民基本台帳（5年分）を用いて変化率を算出している。

コーホート変化率法は、変化率の算出基礎となる直近年に特殊な人口変動がなく、また推計対象となる将来にも特殊な人口変動が予想されない場合に、比較的簡便な方法として用いられる手法である。本計画のp.22までの独自推計は、「過去5年間の動向が将来にわたって持続した場合」の推計となっている。

■ コーホート変化率法による推計の流れ

<推計手順>

Step 1 コーホート変化率の算出

本村における平成 23(2011)年の A 歳の人口と翌年の人口（平成 24(2012)年の A+1 歳の人口）を把握し、その変化率を算出する。同様に、平成 24(2012)年の A 歳、平成 25(2013)年の A 歳、平成 26(2014)年の A 歳の変化率を算出し、その平均を「A 歳のコーホート変化率」と設定する。

なお、100 歳以上に関してはひとまとめとし、平成 23(2011)年の 99 歳と 100 歳以上の人口を足して変化率（99 歳以上の人口変化率）を算出する。

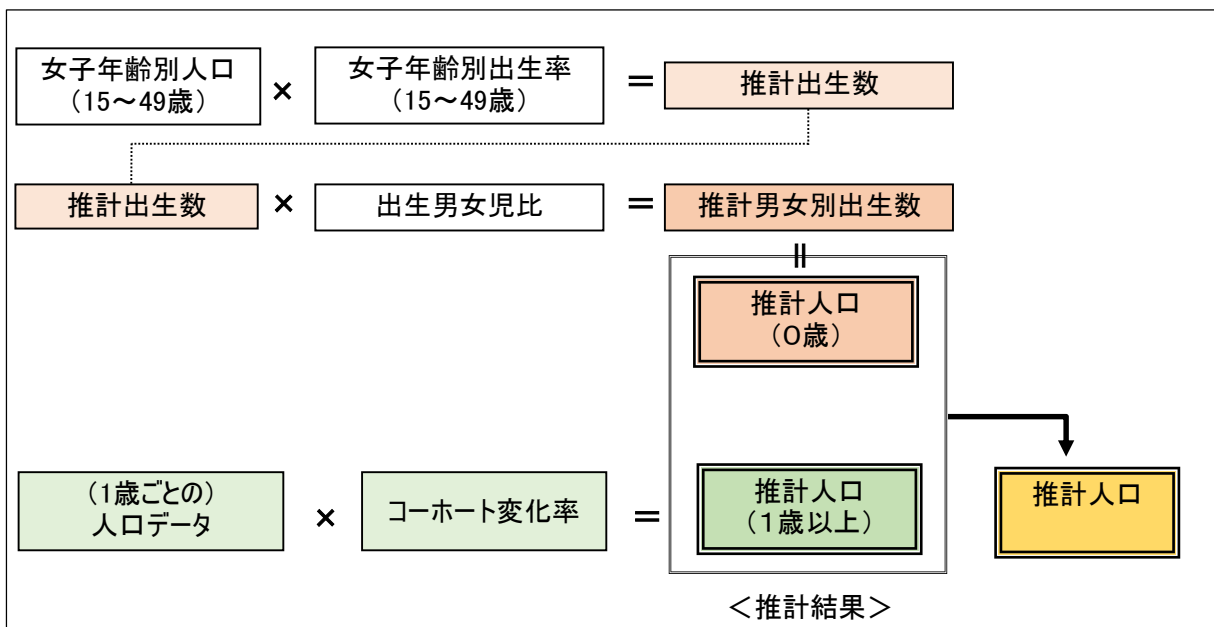
Step 2 出生率の設定

出生率は、千葉県において公表されている、平成 23(2011)年から平成 25(2013)年における女性 5 歳階級別出生数（長生村）と、住民基本台帳における女性 5 歳階級別人口から 5 歳ごとの出生率を算出する。

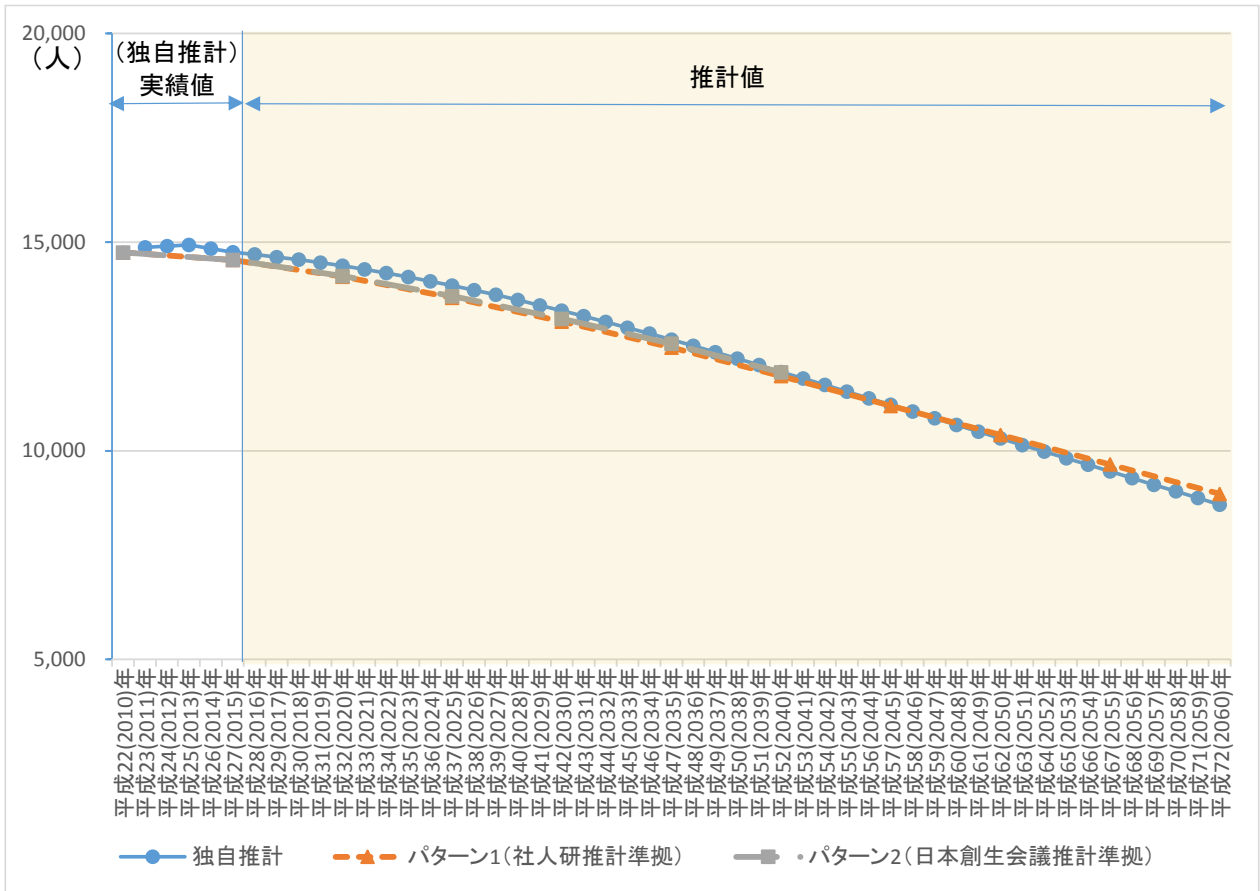
Step 3 将来人口の算出

1 歳以上の人口については、前年の人口に各歳のコーホート変化率を乗じて算出する。

0 歳人口については、女性年齢別人口の推計値に年齢別の上記出生率を乗じることで出生数を求め、合算する。なお、その際の出生男女比は、平成 23(2011)年から平成 27(2015)年の 0 歳児の男女比と固定して設定する。



【参考：独自推計と他機関による推計の違い】



※ 独自推計について、平成 22（2010）年は住民基本台帳データが存在しないため空欄としている。

※ パターン 2 の日本創生会議推計については、平成 52(2040)年までの推計となっている。

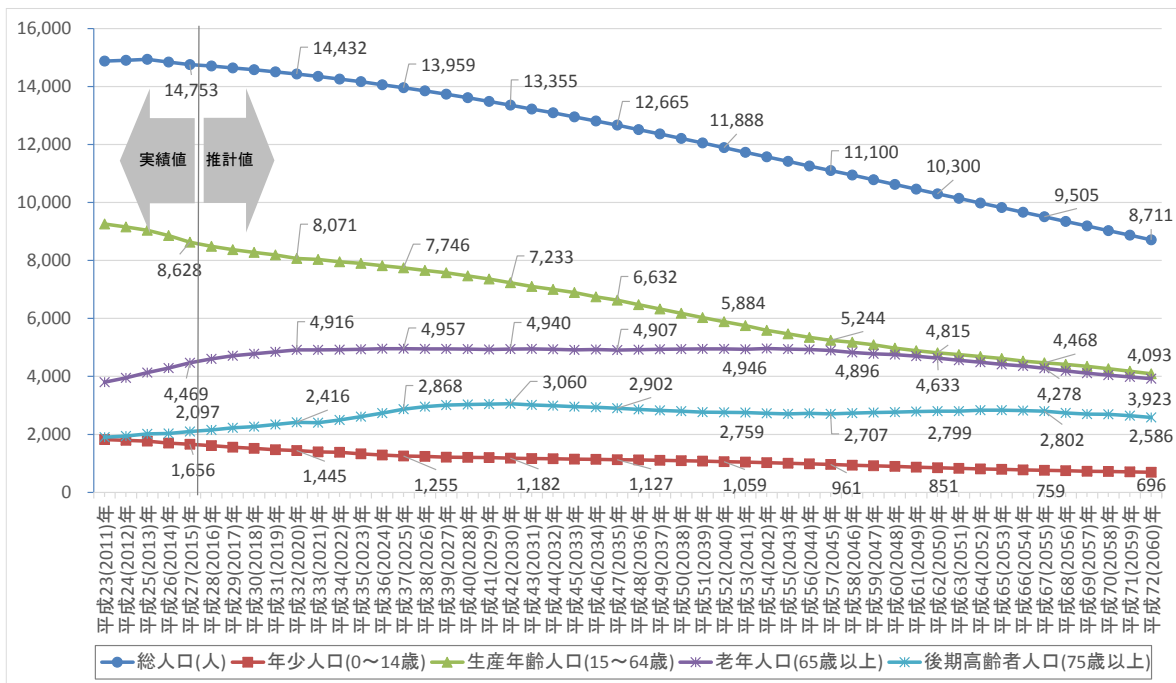
	平成22 (2010) 年	平成27 (2015) 年	平成32 (2020) 年	平成37 (2025) 年	平成42 (2030) 年	平成47 (2035) 年	平成52 (2040) 年	平成57 (2045) 年	平成62 (2050) 年	平成67 (2055) 年	平成72 (2060) 年
独自推計	—	14,753	14,432	13,959	13,355	12,665	11,888	11,100	10,300	9,505	8,711
パターン1(社人研推計準拠)	14,752	14,570	14,170	13,666	13,096	12,473	11,788	11,075	10,378	9,673	8,968
パターン2(日本創生会議推計準拠)	14,752	14,570	14,186	13,704	13,162	12,564	11,877	推計データなし			

### 第3節 推計結果

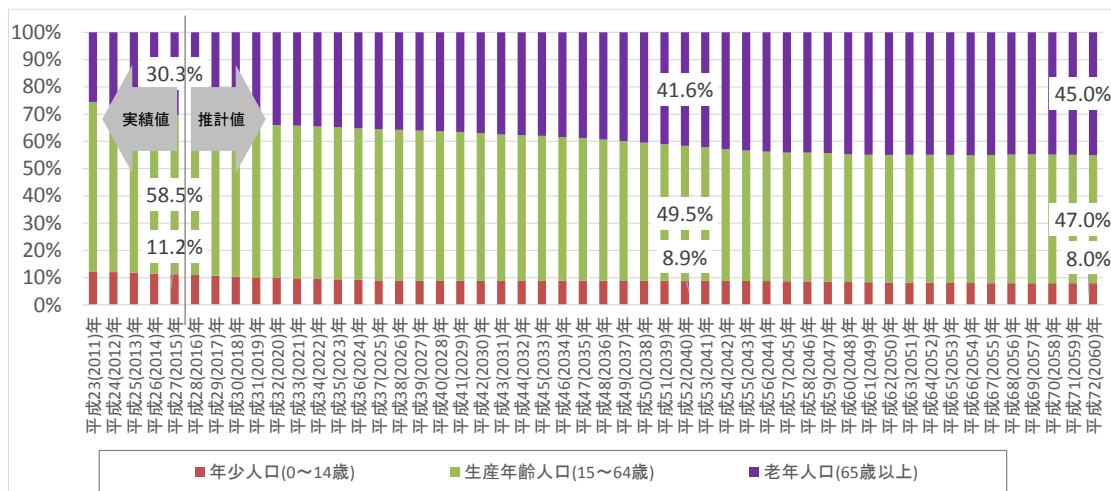
#### (1) 村内総人口

- ・平成52(2040)年には、村内人口のうち40%以上が老年人口となっている見込みである。
- ・村内総人口については、減少を続け平成39(2027)年頃から減少幅がさらに大きくなる。
- ・生産年齢人口は、平成30(2018)年代には一旦減少ペースは落ち着くが、平成37(2025)年頃から再度減少幅が大きくなる。
- ・老年人口は、平成32(2020)年頃からほぼ横ばいだが、後期高齢者人口に絞ってみると、平成34(2022)年頃から平成39(2027)年頃まで急増する見込みである。
- ・平成27(2015)年現在は、老年人口1人を生産年齢人口1.9人で支えているが、平成52(2040)年には、生産年齢人口(5,884人)と老年人口(4,946人)が接近し、老年人口1人を生産年齢人口1.2人で支えることになる。

#### ■ 総人口及び年齢3区分別人口の推移



#### ■ 年齢3区分別人口の比率の推移

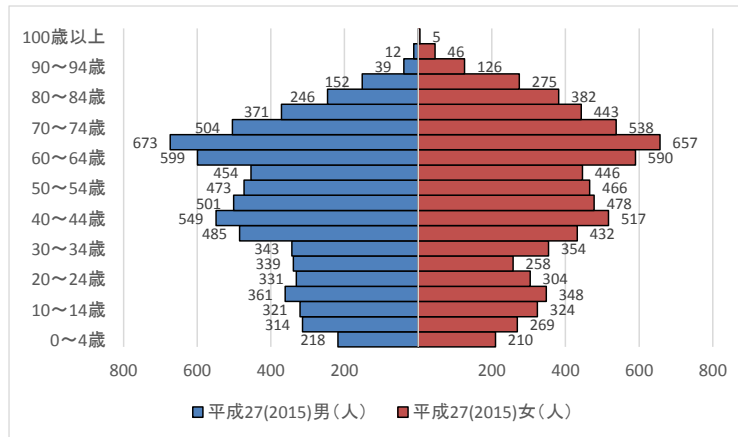


## (2) 村内男女別人口

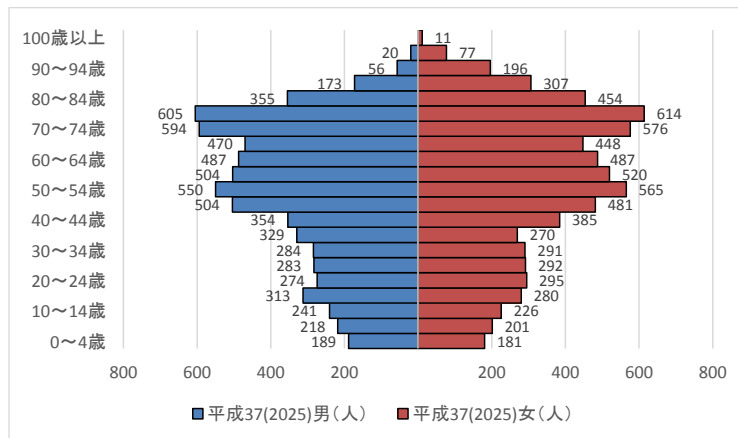
### ■ 人口ピラミッドの推移

- ・ 全体的に人口が減少していく中、年齢構成比率は、男女ともに若年層の比率が減少する見込みである。
- ・ 男女ともに、比率の重心が高齢者層に傾き、細長い逆三角形の形状に近くなっていく。

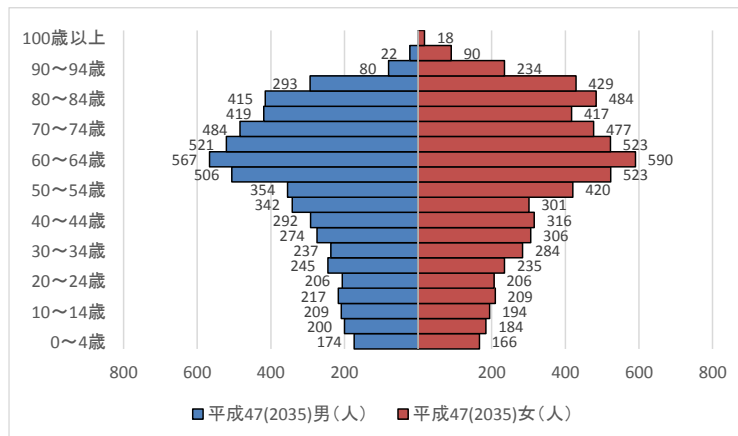
#### ➤ 平成 27 (2015) 年 (実績値)



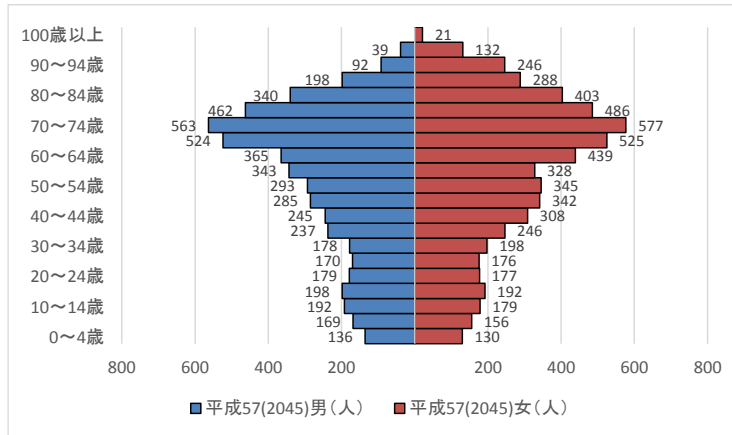
#### ➤ 平成 37 (2025) 年 (推計値)



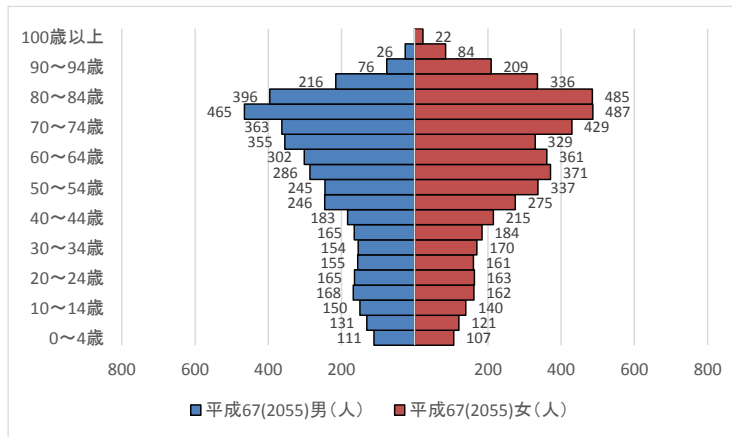
#### ➤ 平成 47 (2035) 年 (推計値)



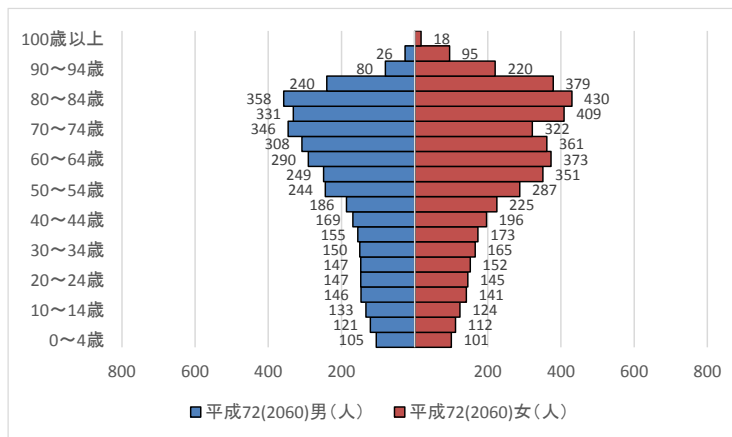
➤ 平成 57(2045)年 (推計値)



➤ 平成 67(2055)年 (推計値)



➤ 平成 72(2060)年 (推計値)





### 3. 人口変化が地域の将来に与える影響の分析・考察

#### 第1節 分析する推計人口の設定

- ・前章の推計結果に基づき、最も近年の動向が加味されており、地域別かつ1歳ごとの人口を詳細に分析が可能な住民基本台帳に基づく独自推計を、本章の分析・考察にあたって利用する推計結果として設定する。
- ・その際の村の1歳ごとの推計人口は、次のとおりとなり、これに基づき直接人口に与える影響や地域社会に与える影響について分析・考察する。

#### ■ 村の年代別推計人口の推移

【各年代の10年後の人口と想定される社会的影響】

年度 年齢	平成27(2015)年 実績	平成37(2025)年 推計	人口増減	想定される影響
総数	14,753	13,959	全村 ( -5.4% )	
0歳	80	69	■未就学児 536 → 450 人 ( -16.1% )	・未就学児は10年後には2割弱程度減少すると見込まれる。
1歳	79	73		
2歳	83	74		
3歳	95	76		
4歳	91	77		
5歳	108	80		
6歳	117	81	■小学生 712 → 517 人 ( -27.5% )	・小学生は3割弱程度減少の見込みである。現状よりもさらに少人数の学級になると見込まれる。
7歳	135	83		
8歳	95	86		
9歳	128	88		
10歳	108	91		
11歳	129	86		
12歳	129	90	■中学生 408 → 289 人 ( -29.1% )	・中学生も3割程度的大幅減。1学年の人数が100人を切りはじめ、クラス編成等の再考が必要になると考えられる。
13歳	144	103		
14歳	135	96		
15歳	130	112	■高校生 426 → 372 人 ( -12.7% )	・高校生は、1割強程度の減少。
16歳	161	120		
17歳	135	140		
18歳	136	95	■大学生等 568 → 444 人 ( -21.8% )	・大学生に相当する年齢層は2割程度減少の見込みである。
19歳	147	126		
20歳	141	103		
21歳	144	121	■20歳代(重複含む) 1,232 → 1,144 人 ( -7.2% )	・結婚・子育ての予備軍となる20代は7%程度減少する。
22歳	134	114		
23歳	110	121		
24歳	106	111		
25歳	114	106		
26歳	131	130		
27歳	119	108		
28歳	117	111		
29歳	116	119		
30歳	125	120	■30歳代 1,614 → 1,173 人 ( -27.3% )	・出産・子育ての主力となる世代が3割弱程度的大幅減。これに伴い、出生数も大幅に減少する。(現在のような子育て支援策で補完できるレベルの減少幅ではない。)
31歳	137	124		
32歳	166	121		
33歳	144	107		
34歳	125	102		
35歳	160	109		
36歳	173	129		
37歳	178	120		
38歳	215	120		
39歳	191	121		
40歳	203	132	■40歳代 2,045 → 1,724 人 ( -15.7% )	・30代ほどの減少幅ではないが、40代も15%程度減少の見込みであり、社会人経験と技術を持った人材が減少し、企業の体制維持の困難さや税収減少につながるおそれがある。
41歳	210	143		
42歳	213	176		
43歳	217	152		
44歳	223	136		
45歳	184	173		
46歳	216	185		
47歳	187	191		
48歳	183	233		
49歳	209	203		

年度 年齢	平成27(2015)年 実績	平成37(2025)年 推計
50歳	213	217
51歳	181	220
52歳	187	224
53歳	182	225
54歳	176	230
55歳	180	193
56歳	194	228
57歳	186	196
58歳	178	189
59歳	162	218
60歳	223	219
61歳	220	188
62歳	216	194
63歳	253	190
64歳	277	183
65歳	322	187
66歳	308	200
67歳	295	188
68歳	259	181
69歳	146	162
70歳	231	224
71歳	226	219
72歳	185	213
73歳	215	247
74歳	185	267
75歳	186	306
76歳	136	286
77歳	186	270
78歳	151	231
79歳	155	125
80歳	157	193
81歳	121	181
82歳	129	143
83歳	118	159
84歳	103	133
85歳	102	127
86歳	99	86
87歳	77	108
88歳	81	79
89歳	68	79
90歳	48	75
91歳	42	52
92歳	25	50
93歳	24	42
94歳	26	34
95歳	19	28
96歳	18	26
97歳	6	18
98歳	10	16
99歳	5	10
100歳以上	5	11

人口増減	
■50歳代	1,839 → 2,139 人 ( 16.3% )
■60歳代前半	1,189 → 974 人 ( -18.1% )
■前期高齢者	2,372 → 2,088 人 ( -12.0% )
■後期高齢者	2,097 → 2,868 人 ( 36.8% )

想定される影響	
<p>・第二次ベビーブーム世代が50代になるため、年齢層としては人口が増加する。</p>	
<p>・60代前半は2割弱程度減少する見込みである。</p>	
<p>・前期高齢者(65～74歳)は1割強程度の減少。</p>	
<p>・後期高齢者(75歳以上)が現在の4割弱増加する。後期高齢者に対する一人当たり医療費は高いと言われており、扶助費の急増が懸念される。</p> <p>・宿泊型の高齢者福祉施設が現在の1.5倍近い水準で必要となる。このため、ヘルパー・介助士も単純に1.5倍近く必要となるが、いずれの年代でも確保は難しく、サービスが提供できないおそれがある。</p> <p>・高齢者福祉施設は言わずもがな、医療施設や公共交通の利用ニーズが高まり、拡充の必要性が高まる。</p> <p>・独居老人も増えるため、大幅な空き家の発生が懸念されるとともに、見守り活動も人員をあてる必要が生じる。</p> <p>・店舗等の生活利便施設の集約化とともに、後期高齢者も歩いて暮らせる施設の再配置や移住促進策等も有効と考えられる。</p>	

## 第2節 人口分析等の結果のまとめ

これまでの人口の現況分析、および人口推計の結果のまとめは、以下の通りである。

項目		特徴等
人口・人口推計	総人口	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長生村の人口及び世帯数は直近20年を通じて増加傾向が続いている。</li> <li>・ 近年では人口は概ね横ばいにて推移し、世帯数は微増傾向が見られる。</li> </ul>
	年少人口	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年少人口は、ほぼ横ばいに推移しているが、近年は減少傾向が見られる。</li> <li>・ 長生村の各年齢人口の構成比によると、「年少人口」は継続的に減少する。</li> <li>・ 幼児、児童、学生の減少が進み、長期的には、空き教室の増加、学校運営に支障が出ることなどが懸念される。</li> </ul>
	生産年齢人口	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生産年齢人口は、継続的に増加傾向が現れている。</li> <li>・ 男女ともに、幼児のいる家族世帯の転入が見られる。一方で高校・大学の進学に伴うものと想定される10代後半から20代前半の転出超過が見られる。</li> <li>・ 男性は、転出傾向が30代前半まで継続しており、就業場所も村外となっている傾向がみられる。</li> <li>・ 女性は、30代後半より転入超過となる。男性よりも幅広い年代で転入している傾向がみられる。</li> <li>・ 生産年齢人口が減少することにより、出産の母数が減るため、更なる出生数の減少の要因となる。また、村内企業で雇用が確保できなくなることや、住民税等の税収が減少することなどが懸念される。</li> </ul>
	老年人口	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 老年人口は、継続的に増加傾向が現れている。平成22(2010)年時点の人口は昭和55(1980)年比の約2.6倍に増加している。</li> <li>・ 男女ともに50代以降の世代の転入超過がみられる。</li> <li>・ 長生村の各年齢人口の構成比を県や国の構成比と比較すると、「生産年齢人口」の構成比は県・国よりも低く、「老年人口」の構成比は県・国よりも高い値を示しており、長生村の高齢化率の高さが伺える。</li> <li>・ 後期高齢者は、平成34(2022)年頃から平成39(2027)年頃まで急増する見込みであり、医療や高齢者福祉サービス等についての対応が必要と推測される。</li> </ul>
	自然増減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出生数は、数年おきに増減を繰り返しながらも緩やかに減少している。</li> <li>・ 死亡数は、年々緩やかに増加しており、死亡数が出生数を上回る「自然減」が続いている。</li> <li>・ 出生率（合計特殊出生率）をみると、平成25(2013)年度は長生村が1.13、千葉県が1.33、全国が1.43となっており、長生村は低い水準にある。平成17(2005)年度以降、国や千葉県が回復傾向で推移しているが、長生村では増減傾向で推移している。</li> <li>・ 母の年齢別の合計特殊出生率を千葉県と比較すると、「15～19歳」以外の各年代において千葉県の出生率より低く、特に「30～34歳」における出生率が大きく下回っている。</li> <li>・ 村民の出産、子育てへの不安解消に取り組むことが望まれる。</li> </ul>
社会増減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 転入は、平成14(2002)年頃をピークに減少傾向が続いている。</li> <li>・ 転出は、若干減少傾向が見られるもののほぼ横ばいにて推移している。転入は、平成22(2010)年の487人が平成26(2016)年には432人に減少している。継続的にほぼ転入数が転出数を上回る「社会増」であるものの、近年はその差は狭まっている。転出入の場所は、ともに茂原市が約1/4を占めている。</li> <li>・ 男女ともに20代後半以降のUターンや転入の促進、および転出抑制の取組が望まれる。</li> <li>・ 50代以降の世代も転入傾向にあるため、元気な高齢者づくりに取り組み、相互支援のもと地域コミュニティの活性化を図ることも望まれる。</li> </ul>	

項目		特徴等
産業分析	産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長生村の事業所数は、増減を繰り返しつつも継続的に増加傾向が見られ、従業者数も増加している。</li> <li>・ 長生村では、第3次産業の就業者数が多く、年々増加傾向が見られる。</li> <li>・ 平成22(2010)年時点では、第3次産業が4,197人（昭和60年の就業者数（2,173人）の約1.9倍）、第2次産業が1,844人、第1次産業が528人（昭和60年の就業者数（1,385人）の約4割に減）となっている。</li> <li>・ 工業の製造品出荷額等は、平成19(2007)年から平成20(2008)年頃にかけて急増したが、全体的に緩やかに増加傾向が見られる。</li> <li>・ 工業系の事業所数及び従業者数は、ほぼ横ばいに推移しているが、やや減少傾向が見られる。</li> <li>・ 商店数はほぼ横ばいに推移している。</li> <li>・ 商業の年間販売額及び従業者数は、増減があるものの全体的に増加傾向が続いている。</li> </ul>

## 4. 具体的施策を実施した場合の推計シミュレーション

目指すべき将来の方向を検討するため、どの程度の改善を行えば、将来人口が推移するのかを明らかにするため、シミュレーションとして、以下の3つの推計を実施した。

### ■シミュレーション1【合計特殊出生率上昇策の実施】

『子育て支援策の実施により、合計特殊出生率が徐々に上昇し、平成33年に1.8となる』

合計特殊出生率が、現在の約1.18を基準に、平成29(2017)年から5年間毎年約0.124ずつ上昇し、平成33(2021)年に1.8に到達し、以後も1.8を継続した場合。

※合計特出生率1.8は、政府の地方創生「総合戦略」骨子案において、「まず目指すべき水準」として示された値。

◇合計特殊出生率の仮定値

平成26 (2014)年	平成27 (2015)年	平成28 (2016)年	平成29 (2017)年	平成30 (2018)年	平成31 (2019)年	平成32 (2020)年	平成33 (2021)年	平成 34(2022) ～平成 72(2060)年
1.18	1.18	1.18	1.30	1.43	1.55	1.68	1.80	1.80

### ■シミュレーション2【転入数増加施策の実施】

『住宅供給施策の実施により、転入が現状に加えてさらに毎年5軒分、15人増加する』

平成29(2017)年から平成72(2060)年まで、平成26(2014)年の転入数(471人)に比べて、15人増の転入数(486人)がある状態が継続した場合。

増加する世帯は、世帯主40歳、妻35歳、子3歳と想定。

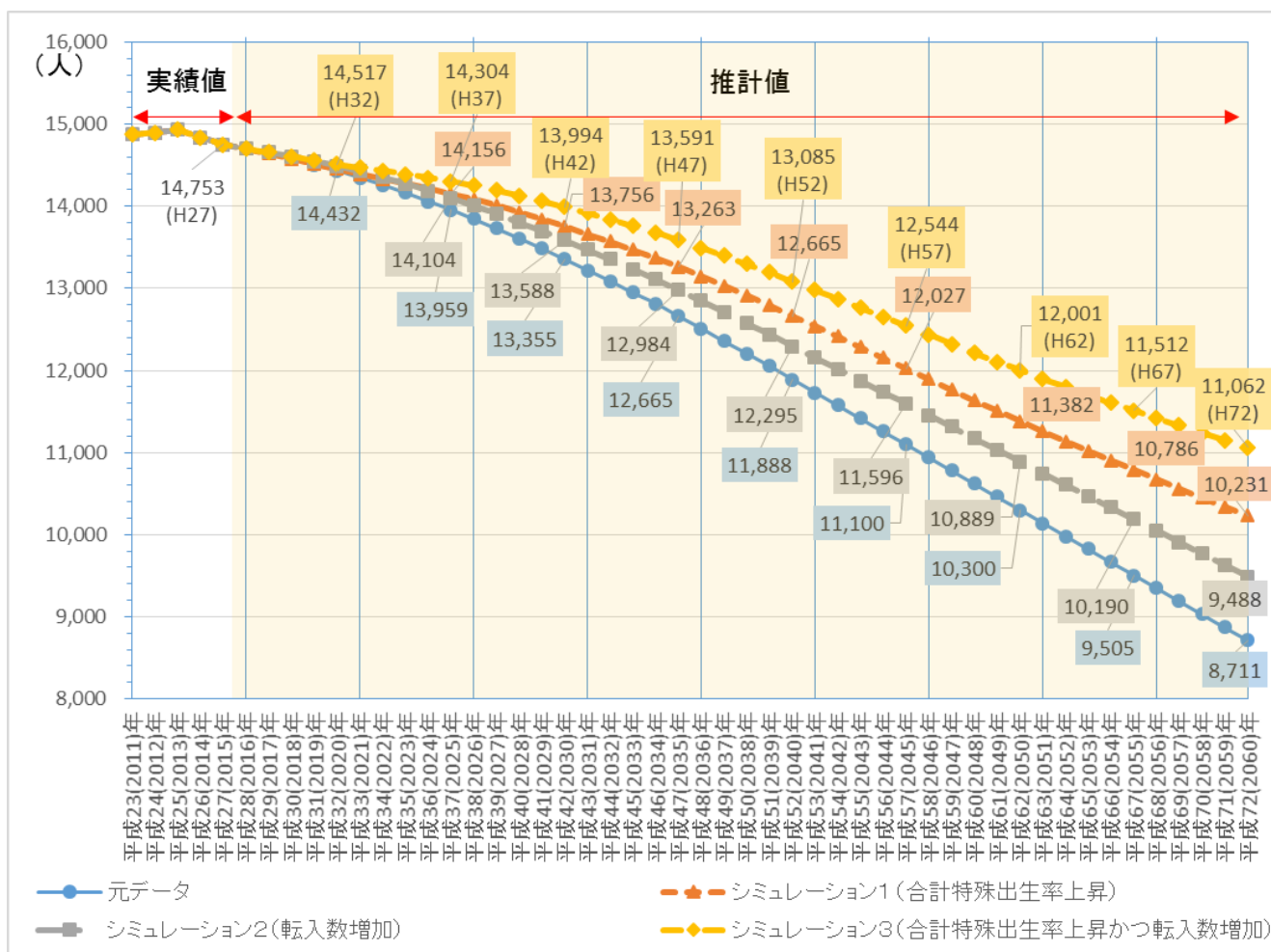
### ■シミュレーション3【合計特殊出生率上昇策の実施】 + 【転入数増加の実施】

『「合計特殊出生率の上昇策」と「転入数増加施策」をともに実施した場合』

## 第1節 3種のシミュレーションの結果

### (1) シミュレーションの結果

シミュレーションの結果として、人口増加数は以下のとおりとなった。



シミュレーションの種別	平成72(2060)年における人口増加数
1 【合計特殊出生率上昇策の実施】	元の人口推計値と比較し <b>1,519人</b> の人口増加が見込まれる。特に若年人口が増えるため、人口構成のバランスが改善される。
2 【転入数増加施策の実施】	元の人口推計値と比較し <b>777人</b> の人口増加が見込まれる。人口構成バランスは1ほどは改善しないが、直接的な人口増加効果大きい。
3 【合計特殊出生率上昇策の実施】 + 【転入数増加の実施】	元の人口推計値と比較し <b>2,351人</b> の人口増加が見込まれる。出産の母体となる女性人口の増加に加え、出生率が改善するため、現在の人口規模の減少は緩やかに抑えられる。

(2) シミュレーションの結果における人口構成バランス

結果は以下のとおりであり、出生率の向上だけでは、母親の数が減る影響を受け大きな人口増加につながることはならず、逆に転入数の増加だけでも子供の数が増えないため、人口構成のバランスに欠けることとなる。つまり、3のシミュレーションのとおり、自然増と社会増の両輪が必要であり、両者に関連した施策を実施していくことが長生村の持続可能性につながるものと考えられる。

シミュレーションの種別	平成72(2060)年における人口構成 (人口ピラミッド)																																																																					
<p><b>1 【合計特殊出生率上昇策の実施】</b></p>	<table border="1"> <caption>平成72(2060)年における人口構成 (人口ピラミッド) - シミュレーション1</caption> <thead> <tr> <th>年齢</th> <th>平成72(2060)男(人)</th> <th>平成72(2060)女(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>100歳以上</td><td>26</td><td>18</td></tr> <tr><td>90~94歳</td><td>80</td><td>95</td></tr> <tr><td>80~84歳</td><td>240</td><td>220</td></tr> <tr><td>70~74歳</td><td>358</td><td>379</td></tr> <tr><td>60~64歳</td><td>331</td><td>430</td></tr> <tr><td>50~54歳</td><td>346</td><td>409</td></tr> <tr><td>40~44歳</td><td>308</td><td>322</td></tr> <tr><td>30~34歳</td><td>290</td><td>361</td></tr> <tr><td>20~24歳</td><td>249</td><td>373</td></tr> <tr><td>10~14歳</td><td>244</td><td>351</td></tr> <tr><td>0~4歳</td><td>186</td><td>287</td></tr> <tr><td></td><td>179</td><td>225</td></tr> <tr><td></td><td>227</td><td>208</td></tr> <tr><td></td><td>230</td><td>254</td></tr> <tr><td></td><td>225</td><td>253</td></tr> <tr><td></td><td>226</td><td>233</td></tr> <tr><td></td><td>235</td><td>227</td></tr> <tr><td></td><td>244</td><td>219</td></tr> <tr><td></td><td>234</td><td>225</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>224</td></tr> </tbody> </table>	年齢	平成72(2060)男(人)	平成72(2060)女(人)	100歳以上	26	18	90~94歳	80	95	80~84歳	240	220	70~74歳	358	379	60~64歳	331	430	50~54歳	346	409	40~44歳	308	322	30~34歳	290	361	20~24歳	249	373	10~14歳	244	351	0~4歳	186	287		179	225		227	208		230	254		225	253		226	233		235	227		244	219		234	225			224						
年齢	平成72(2060)男(人)	平成72(2060)女(人)																																																																				
100歳以上	26	18																																																																				
90~94歳	80	95																																																																				
80~84歳	240	220																																																																				
70~74歳	358	379																																																																				
60~64歳	331	430																																																																				
50~54歳	346	409																																																																				
40~44歳	308	322																																																																				
30~34歳	290	361																																																																				
20~24歳	249	373																																																																				
10~14歳	244	351																																																																				
0~4歳	186	287																																																																				
	179	225																																																																				
	227	208																																																																				
	230	254																																																																				
	225	253																																																																				
	226	233																																																																				
	235	227																																																																				
	244	219																																																																				
	234	225																																																																				
		224																																																																				
<p><b>2 【転入数増加施策の実施】</b></p>	<table border="1"> <caption>平成72(2060)年における人口構成 (人口ピラミッド) - シミュレーション2</caption> <thead> <tr> <th>年齢</th> <th>平成72(2060)男(人)</th> <th>平成72(2060)女(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>100歳以上</td><td>26</td><td>18</td></tr> <tr><td>90~94歳</td><td>80</td><td>95</td></tr> <tr><td>80~84歳</td><td>240</td><td>220</td></tr> <tr><td>70~74歳</td><td>373</td><td>379</td></tr> <tr><td>60~64歳</td><td>355</td><td>430</td></tr> <tr><td>50~54歳</td><td>372</td><td>432</td></tr> <tr><td>40~44歳</td><td>334</td><td>352</td></tr> <tr><td>30~34歳</td><td>316</td><td>392</td></tr> <tr><td>20~24歳</td><td>274</td><td>404</td></tr> <tr><td>10~14歳</td><td>269</td><td>381</td></tr> <tr><td>0~4歳</td><td>216</td><td>317</td></tr> <tr><td></td><td>207</td><td>257</td></tr> <tr><td></td><td>169</td><td>234</td></tr> <tr><td></td><td>164</td><td>210</td></tr> <tr><td></td><td>162</td><td>177</td></tr> <tr><td></td><td>165</td><td>164</td></tr> <tr><td></td><td>169</td><td>159</td></tr> <tr><td></td><td>158</td><td>158</td></tr> <tr><td></td><td>148</td><td>143</td></tr> <tr><td></td><td>121</td><td>132</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>115</td></tr> </tbody> </table>	年齢	平成72(2060)男(人)	平成72(2060)女(人)	100歳以上	26	18	90~94歳	80	95	80~84歳	240	220	70~74歳	373	379	60~64歳	355	430	50~54歳	372	432	40~44歳	334	352	30~34歳	316	392	20~24歳	274	404	10~14歳	269	381	0~4歳	216	317		207	257		169	234		164	210		162	177		165	164		169	159		158	158		148	143		121	132			115			
年齢	平成72(2060)男(人)	平成72(2060)女(人)																																																																				
100歳以上	26	18																																																																				
90~94歳	80	95																																																																				
80~84歳	240	220																																																																				
70~74歳	373	379																																																																				
60~64歳	355	430																																																																				
50~54歳	372	432																																																																				
40~44歳	334	352																																																																				
30~34歳	316	392																																																																				
20~24歳	274	404																																																																				
10~14歳	269	381																																																																				
0~4歳	216	317																																																																				
	207	257																																																																				
	169	234																																																																				
	164	210																																																																				
	162	177																																																																				
	165	164																																																																				
	169	159																																																																				
	158	158																																																																				
	148	143																																																																				
	121	132																																																																				
		115																																																																				
<p><b>3 【合計特殊出生率上昇策の実施】 + 【転入数増加の実施】</b></p>	<table border="1"> <caption>平成72(2060)年における人口構成 (人口ピラミッド) - シミュレーション3</caption> <thead> <tr> <th>年齢</th> <th>平成72(2060)男(人)</th> <th>平成72(2060)女(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>100歳以上</td><td>26</td><td>18</td></tr> <tr><td>90~94歳</td><td>80</td><td>95</td></tr> <tr><td>80~84歳</td><td>240</td><td>220</td></tr> <tr><td>70~74歳</td><td>373</td><td>379</td></tr> <tr><td>60~64歳</td><td>355</td><td>430</td></tr> <tr><td>50~54歳</td><td>372</td><td>432</td></tr> <tr><td>40~44歳</td><td>334</td><td>352</td></tr> <tr><td>30~34歳</td><td>316</td><td>392</td></tr> <tr><td>20~24歳</td><td>274</td><td>404</td></tr> <tr><td>10~14歳</td><td>269</td><td>381</td></tr> <tr><td>0~4歳</td><td>216</td><td>317</td></tr> <tr><td></td><td>217</td><td>257</td></tr> <tr><td></td><td>242</td><td>234</td></tr> <tr><td></td><td>245</td><td>210</td></tr> <tr><td></td><td>241</td><td>177</td></tr> <tr><td></td><td>260</td><td>164</td></tr> <tr><td></td><td>266</td><td>159</td></tr> <tr><td></td><td>277</td><td>158</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>143</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>132</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>115</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>245</td></tr> </tbody> </table>	年齢	平成72(2060)男(人)	平成72(2060)女(人)	100歳以上	26	18	90~94歳	80	95	80~84歳	240	220	70~74歳	373	379	60~64歳	355	430	50~54歳	372	432	40~44歳	334	352	30~34歳	316	392	20~24歳	274	404	10~14歳	269	381	0~4歳	216	317		217	257		242	234		245	210		241	177		260	164		266	159		277	158			143			132			115			245
年齢	平成72(2060)男(人)	平成72(2060)女(人)																																																																				
100歳以上	26	18																																																																				
90~94歳	80	95																																																																				
80~84歳	240	220																																																																				
70~74歳	373	379																																																																				
60~64歳	355	430																																																																				
50~54歳	372	432																																																																				
40~44歳	334	352																																																																				
30~34歳	316	392																																																																				
20~24歳	274	404																																																																				
10~14歳	269	381																																																																				
0~4歳	216	317																																																																				
	217	257																																																																				
	242	234																																																																				
	245	210																																																																				
	241	177																																																																				
	260	164																																																																				
	266	159																																																																				
	277	158																																																																				
		143																																																																				
		132																																																																				
		115																																																																				
		245																																																																				

## 5. 目指すべき将来の方向

### 第1節 目指すべき将来の方向と姿について

本村は、周辺都市や首都圏への通勤圏内としての恵まれた立地条件や、茂原市等への近隣に比して地価や物価が比較的安価であり、ベッドタウンとして宅地化が進んできた。地域雇用もある程度確保できていることもあり、本村は全国的に人口減少が進行する中でも人口推移はほぼ横ばい状態となっており、現在ではまだ大きな人口減少とはなっていない。また、大きな開発がなく田んぼが広がる風景が残されているなど、住環境の良さが村の大きなメリットになっていることなどから、出産後に家族で転入してくる世帯もある。特に、母親世代がUターンで戻っていることが見受けられることや、50代以上の世代の転入が見られるなど、社会増減では転入数が上回っている現状を活かしていくことが望まれる。

一方で、合計特殊出生率は国や県と比較してやや低く、30～34歳の世代で出生率が低いなど、出産する環境として長生郡市で産院が少ないことや、高校や大学などがいないため、若者世代が村外へ転出する傾向が強いなどといった課題もある。また、これらの状況から人口ピラミッドで見ると人口減少が若年世代を中心として進み、人口構造がアンバランスとなる可能性が高い状況となっている。

これらの状況の中、現行の総合計画では、長生村が目指す将来の姿＝将来目標像＝を『**未来へつなぐ健康で平和な村：長生**』と定めている。

そのため、人口ビジョン及びこの目標を受けた総合戦略においては、村の最上位計画である総合計画におけるこの目標像を、目指すべき将来の姿として、位置付ける。

また、この目指すべき将来の姿を目指し、この落ち着いた原風景ともいえる本村のまち全体の強みを活かし、人口を極力多く維持しながら長生村の大切な宝である「人」（かけがえのない命と心）と「暮らしの舞台」（恵み豊かな大地と海）を生かし誇りを持って育てていくためには、『子どもの数を確保し続けること』と『今ある村の良さを活かした、村の活性化』が最も重要な要素であると考えられる。

そこで、本村の目指すべき将来の方向として『子どもの数の確保』と『村の良さを活かした、帰ってきたいまちづくり』を位置付ける。

このため、本村の人口減少への対策となる地域総合戦略においては、これら2つの目指すべき将来の方向に加えて国の4本柱も考慮して、「働く：雇用」、「人々が集う：コミュニティ」、「結婚・出産・子育て」、「住む魅力のあるまちづくり」の4つの基本目標を位置付け、これらの基本目標に沿って、各種施策を実施する。



## 第2節 将来目標人口の設定

目指すべき将来の姿をベースに、人口減少の要因分析やそれへの対策による将来人口のシミュレーションの結果を受け、将来目標人口の目標を以下のとおり設定する。

**将来目標人口は、総人口だけでなく年齢バランスも考慮するものとし、  
2060年に人口約1万1千人を維持する。**

## 長生村人口ビジョン

---

発行日 平成28年3月

発行 長生村

〒299-4394 千葉県長生郡長生村本郷 1-77

TEL : 0475-32-4743

編集 企画財政課

---





長生村イメージキャラクター  
太陽くん